

麻しんの発生について

千葉市中央区在住の20歳代の男性が、2月13日（水）に麻しんと診断され、診断した東京都内医療機関から、管轄である千葉市保健所に麻しんの発生届がありましたので、お知らせします。

千葉市保健所では、感染可能期間中における当該患者の接触者の調査及び健康観察を実施しています。

1 患者等の状況

(1) 患者について

ア 年代、性別、職種

20歳代、男性、会社員

イ 症状等

発熱、発疹、咳、鼻汁

ウ 状態

当該患者は回復しています。

エ ワクチン接種歴

1回

(2) 接触者について

感染可能期間である2月5日（火）～2月13日（水）について、接触者の調査を行うとともに、接触者の健康観察を実施中です。

2 患者発生の経過

平成31年1月20日（日）～1月26日（土） モルディブに滞在。

2月 6日（水）夜に発熱等発症。

7日（木）千葉市内医療機関Aを受診。同市内薬局Bを利用。

夜に発疹症状出現。

9日（土）医療機関Aを再受診。薬局Bを再度利用。東京都内医療機関Cを紹介され、当日のうちに受診。

10日（日）解熱。

12日（火）医療機関Cを再受診。

13日（水）地方衛生研究所の遺伝子検査において麻しん（はしか）陽性と判明。

3 麻しん患者が利用し、不特定多数の方と接触した可能性のある交通機関等

感染の可能性のある日	交通機関名称等
2月5日（火）、2月6日（水）	8：00 本千葉駅発（内房線）下り電車 （帰宅時も同様の経路だが、利用時間不明）
2月7日（木）	10：19 本千葉駅発（外房線）→千葉駅 （帰宅時も同様の経路だが、利用時間不明）
2月9日（土）	14時台 本千葉駅発→千葉駅（この間、医療機関Aを受診） 16時台 千葉駅構内に30分程度滞在 17時台 千葉駅発（総武線各駅停車）→飯田橋駅（大江戸線） →若松河田駅 23時台 若松河田駅発（大江戸線）→飯田橋駅（総武線 各駅停車）→千葉駅
2月12日（火）	8：00頃 本千葉駅発→千葉駅（総武線各駅停車）→飯田 橋駅（大江戸線）→若松河田駅 （帰宅時も同様の経路だが、利用時間不明）

※上記の交通機関を利用した方は、麻しん患者と接触した可能性があります。麻しんを疑う症状が現れた場合は、必ず事前に医療機関に連絡の上、医療機関の指示に従い受診する必要があります。
※なお、本事例に関わる医療機関、薬局、勤務先等の接触者を特定できる施設については、保健所を通じて対象者の健康観察を実施しています。

4 本市における麻しん発生届出受理件数

	平成25年	平成26年～平成30年
届出件数	11件	0件

※千葉県における麻しん患者の発生は平成25年8月以来、約5年半ぶりです。

<参考>

1 麻しんの症状

感染すると通常10～12日後に38℃前後の発熱、咳、鼻汁、くしゃみ、結膜充血などが約2～4日間続き、解熱後、再び39℃以上の高熱と発疹が出現します。肺炎、中耳炎を合併しやすく、患者1,000人に1人の割合で脳炎が発症すると言われており、死亡する割合も、先進国であっても1,000人に1人と言われています。

2 感染経路

麻しんは麻しんウイルスによって引き起こされる急性の全身感染症として知られています。麻しんウイルスの主たる感染経路は空気感染で、その感染力は非常に強く、免疫を持っていない人が感染するとほぼ100%発症すると言われています。

また、発症した人が周囲に感染させる期間（感染可能期間）は、症状が出現する1日前から解熱後3日間まで（全経過を通じて発熱がみられなかった場合、発疹出現後5日間まで）といわれています。

3 感染予防策

麻しんは予防接種が有効であり、2回定期接種の機会があります。

- ・第1期：1歳以上2歳未満
 - ・第2期：5歳以上7歳未満の者であって、小学校就学前の1年間
- また、麻しんを発症した場合、学校や職場等で感染を拡大させる恐れがあるため、母子手帳などで予防接種歴を確認し、定期予防接種を2回受けていない方や予防接種歴が不明な方は、かかりつけ医などに相談の上、接種を検討する必要があります。

なお、麻しんを疑う症状が現れた場合は、感染拡大を防止するため、事前に医療機関に電話連絡でその旨を伝え、医療機関の指示に従い受診する必要があります。

また、受診時は、周囲への感染を防ぐため、公共交通機関等の利用を避ける必要があります。

4 潜伏期間

約10日～12日間（21日間程度の場合もあります。）

5 治療

特異的な根治療法はなく、対症療法を行います。

6 海外での感染症情報について

海外では、渡航先によっては様々な感染症が流行している場合があります。海外渡航の予定がある方は、厚生労働省検疫所のホームページ（<https://www.forth.go.jp/index.html>）等で渡航先の感染症情報を確認するとともに、予防接種実施の検討等、適切な感染予防を心がける必要があります。